



なぜ、二宮金次郎の像が学校にあるのでしょうか。

御船小学校の国旗掲揚台の前に二宮金次郎の像があります。外観から随分前に設置されたことは分かりますが、いつ、どのような理由で設置されたのかご存じですか？

AI を使って質問すると、次のような回答がありました。

「学校に設置される理由は、彼の生涯が勤勉や努力の象徴として教育において重要視されたからです。二宮金次郎（尊徳）は江戸時代の農政家で、貧しい環境から努力を重ねて成功を収め、多くの農村を救済しました。その姿勢が質素・勤勉の模範として評価され、特に明治時代以降、教育の場で子供たちにその価値観を伝えるために像が設置されるようになりました。彼の像が薪を背負いながら本を読む姿で描かれているのは、働きながら学ぶ姿勢を象徴しており、子供たちに努力と学びの重要性を教える目的がありました。時代が進むにつれて、像のデザインや設置の理由も変化しています。例えば、歩きながら本を読む姿が危険だとされ、座って本を読む姿の像が作られることもあります。」



以上が AI からの回答でした。現代社会では、本から「スマートフォン」に代わってきましたが、自ら主体的に情報や知識を得て活用する姿勢は共通かもしれません。しかし、子供たちには、デジタルだけでなく、活字にも慣れ親しんでほしいものです。

4つの「あ」その3 あいず

御船小4つの「あ」のその3は「あいず」です。「合図」を国語辞典で調べると「意思を伝えるために約束された、言葉以外の手段。また、その手段で知らせること」とあります。学校生活は、集団で活動する場面が多く一定の時間枠が決まっています。学校の中での「あいず」は「時間を守る」ことです。子供たちは、毎朝同じ時間に起床し、朝ご飯を食べて登校しているのでしょうか。私たちは同じ時間に一定の行動を繰り返すことで行動が習慣化するといわれています。いわゆる生活習慣です。一定の生活習慣ができると生活にリズムができるものです。しかし、最近ではゲームに夢中になって生活リズムが崩れやすい時代です。ゲームについつい夢中になって生活習慣が崩れないようにしてほしいものですね。

